

科目名				授業の種類		授業担当者
保育実習指導				演習		下平正恵
学年	単位	時間数	授業回数	履修時期	選択・必修	
2	1	30	15	前期	幼児: 選択	保育士: 必修
[授業の目的・ねらい]						
1 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。						
[授業全体の内容と概要]						
1 保育実習による総合的な学び (1) 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 (2) 子どもの保育と保護者支援 2 保育実践力の育成 (1) 子どもの状態に応じた適切なかかわり (2) 保育の表現技術を生かした保育実践 3 計画と観察、記録、自己評価 (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実録 (2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 4 保育士の専門性と職業倫理 5 事後指導における実習の総括と評価 (1) 実習の総括と自己評価 (2) 課題の明確化						
[受講上の注意事項]						
・十分な予習を行って授業にのぞみ、必ず復習を行う。						
[使用テキスト]				[評価基準]		
・保育所保育指針解説書(厚生労働省) ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本> ・保育のマナーと言葉 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 ・保育者になる人のための実習ガイドブックA to Z				・保育実習関連の課題・提出物(80%) ・授業への意欲・態度(20%)		
[授業の日程と各回のテーマ・授業内容]						
回	項目		授業内容			
1	保育実習 I [後半]・II・IIIについて		保育実習 I [後半]・II・IIIの意義と目的の理解			
2	職員の資質向上に関する基本的事項		保育士の専門性と職業倫理、保育士の資質			
3	保育実施上の配慮事項		子どもの最善の利益を考慮した保育のあり方			
4	保育の計画立案		保育の全体計画と具体的な計画立案の仕方			
5	健康への配慮、特別な支援が必要な子どもへの配慮		子どもの状態に応じた適切なかかわり方			
6	健康への配慮、特別な支援が必要な子どもへの配慮		保育現場の環境設定と衛生管理・安全管理			

7	保育と表現技術	保育の表現技術を生かした保育実践のあり方(手遊び講習会)
8	入所している子どもの保護者支援	子どもの保育と保護者支援のあり方
9	保育の内容の自己評価	保育の観察・記録・自己評価に基づく保育の改善
10	直前指導1	指導案(部分活動)、保育計画の立案
11	直前指導2	指導案(全日活動)、保育計画の立案
12	直前指導3	持参品、事前準備品等の確認
13	保育実習Ⅰ〔後半〕のまとめ	事後の提出物(実習ノート、報告書、感想文等)を整理し、報告会を実施
14	保育実習Ⅱ・Ⅲのまとめ	事後の提出物(実習ノート、報告書、感想文等)を整理し、報告会を実施
15	総合まとめ	実習の振り返り・まとめ
実務教員としての経歴	保育所にて保育士として5年(そのうち1年副主任)勤務。	
実務経験と授業の関連	保育者としての経験を活かし保育実習で必要な知識と技術を養う。	